

《初開催》

# 県内4機関合同シーズ発表会

参加費  
無料

昨今、新技術の研究開発や新事業の創出を目的として、大学・高専や公設試験研究機関と民間企業が連携し、産学官連携による共同研究へと発展する事例が増えています。  
このたび、初の試みとして、大学等と富山県内企業との新たな交流の場を創出するため、サーキュラーエコノミーをテーマとした合同シーズ発表会を開催いたします。  
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

■日時: **令和 8年10月15日(木)**

13:30-16:40(13:00からTONIO会場の受付開始/オンラインも13:00入室開始)

■会場: 富山県新世紀産業機構 技術交流ビル2階 研修室(富山市高田529)  
(4機関から2名ずつ、合計8名がTONIO会場から講演し配信も行います。)

※視聴は会場またはオンライン配信のいずれかで可能です。

■募集人員: 会場: 先着60名、オンライン: 先着200名

■申込み: 令和8年10月13日(火)17時 締切

■対象者: 県内企業の経営者、管理者、技術者等

■申込方法: 視聴方法に応じて以下の①または②の方法でお申込みください。

①会場での視聴: 以下の申込用紙にご記入のうえFAXまたは電子ファイルにてメール送信願います。

②オンラインで視聴: 以下のURLまたは右記QRコードのフォームからお申込みください。

■会場では終了後に名刺交換会を実施致します。

各機関のコーディネーターも会場に待機しております。



[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_mtlaYNJUQYqGaadGdVmP4A](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_mtlaYNJUQYqGaadGdVmP4A)

## 会場参加申込書

FAX: 076-433-4207 E-mail: m.yoshimura@tonio.or.jp

|          |      |        |  |
|----------|------|--------|--|
| 企業名・団体名  |      |        |  |
| 所在地      | (〒 ) |        |  |
| 連絡担当者    |      |        |  |
| TEL      |      | E-mail |  |
| 会場参加希望者名 |      |        |  |
| E-mail   |      |        |  |
| 所属部署     |      | 職位・職名  |  |

お問い合わせ (公財)富山県新世紀産業機構  
イノベーション推進センター

TEL: 076-444-5636 FAX: 076-433-4207

E-mail: m.yoshimura@tonio.or.jp (担当: 吉村)

主催 とやま県産学官連携コーディネーター連絡会

## 1. <富山大学 発表者①>

船塚 達也:学術研究部工学部 助教



プロフィール:富山大学学術研究部工学系助教。博士(工学)。塑性加工、マイクロ加工、トライボロジー(摩擦・摩耗学)を専門とし、アルミニウム合金やマグネシウム合金の高精度・高効率加工技術の研究に取り組んでいる。2015年から2017年にかけて米国ノースウェスタン大学に留学し、先端的なものづくり技術の研究に従事。現在は、アルミニウム材料の高機能化やリサイクル技術、マイクロスケールの塑性加工技術の開発を進めるとともに、持続可能な製造技術の実現に向けた研究を展開している。

講演タイトル:アルミニウム押出し加工プロセスのSDGs対応

講演要旨:本発表では、持続可能な社会の実現に向けたアルミニウム押出し加工プロセスのSDGs対応に関する最新の取り組みを紹介する。新地金への依存度低減と温室効果ガス削減のため、リサイクルアルミニウムを活用した3つの技術が提案されている。具体的には、切削くずを再鋳造せず直接押出す「ダイレクトリサイクル工法」、工具の長寿命化を図る「CoCrMoダイとナノテクスチャ仕上げ」、さらに加工発熱を制御する「冷却援用技術」の開発が進められている。これらを通じて高品質なリサイクル材の安定供給と環境負荷低減の両立を目指す。

## 2. <富山県立大学 発表者①>

脇坂 暢(みつる):工学部環境・社会基盤工学科 教授



プロフィール:2019.4 富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科 教授

2017.4 富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科 准教授

2011.4 山梨大学燃料電池ナノ材料研究センター 特任准教授

2003.10山梨大学クリーンエネルギー研究センター 産学官連携研究員

2002.4 イリノイ大学アーバナシャンペーン校 博士研究員

2002.3 東北大学大学院工学研究科応用化学専攻博士 博士(工学)取得

講演タイトル:電力・水素エネルギー複合マネジメントシステムの活用

講演要旨:Power to Gas (P2G)は太陽光発電などの再生可能エネルギーの余剰電力を水電解によって水素エネルギーに変換し、貯蔵・利用する技術である。水素は燃料電池によって再電力化が可能であり、ボイラーや工業用バーナーの燃料としても利用することが可能である。富山県立大学では、P2Gを含む電力・水素エネルギー複合マネジメントシステムを導入し(水素バーナー炉の燃焼試験も可能)、建物の最適な電力マネジメントをすすめている。

## 3. <富山高等専門学校 発表者①>

的場 隆一:電子情報工学科/准教授 研究開発協創センター/副センター長



プロフィール:2014.4 富山県立高等専門学校・電子情報工学科 准教授

2010.5 富山高等専門学校・情報工学科・電子制御工学科・電子情報工学科 助教

2010.4 北陸先端科学技術大学院大学 博士研究員

2010.3 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程 博士(情報科学)取得

講演タイトル:混ぜればごみ、見分ければ資源 ―スマートグラスが拓くプラスチック資源循環―

講演要旨:見た目では区別しにくいポリ塩化ビニル(PVC)を、近赤外線とスマートグラスでリアルタイムに可視化することを試みています。既存設備と人の作業を活かし、廃プラスチックの選別精度と資源価値を高める技術と事業化の可能性を紹介します。

## 4. <富山県産業技術研究開発センター 発表者①>

本多 直生:ものづくり研究開発センター デジタルものづくり課 研究員



主な研究発表:「金属と樹脂の接合部材の製造方法」特願2026-041581

「摩擦スポット接合において誘起されるA6061/PPS界面微細凹凸構造の形成挙動に及ぼすツール回転数の影響」溶接学会2026年度秋季全国大会

講演タイトル:摩擦により誘起される界面微細構造を利用した軽金属/樹脂接合技術の開発

講演要旨:摩擦スポット接合中に接合面へ微細な凹凸構造をその場形成し、軽金属と樹脂を直接接合する技術について紹介します。接合条件と界面微細構造の形成挙動との関係を調査し、その形成機構の解明を進めています。さらに、異なる軽金属・樹脂の組合せへの適用可能性を検討し、接着剤や表面処理を必要としない簡便な異材接合プロセスへの展開を目指しています。

## 5. <富山大学 発表者②>



酒徳 昭宏:理学部 講師

プロフィール:富山大学学術研究部理学系講師。博士(理学)。環境微生物学・環境分子生物学を専門とし、微生物の力を活用した環境保全や資源循環、地域産業の課題解決に取り組んでいる。海藻や植物廃棄物を分解する微生物の研究をはじめ、真珠養殖におけるアコヤガイの疾病対策や環境モニタリング技術の開発など、基礎研究から社会実装を見据えた研究まで幅広く展開。  
富山の豊かな自然環境に存在する微生物の可能性を探究し、その成果を持続可能な社会づくりに生かすことを目指している。

講演タイトル:環境微生物を用いたサーキュラーエコノミー

講演要旨:環境中には様々な微生物が生息している。その中には、「植物廃棄物を分解することで減容化し、新たに有用成分を産生する細菌」や「様々な有用物質を細胞内に蓄積する微細藻類」など有用な微生物たちも多数存在する。本発表では、我々の研究室で実施してきたいくつかの具体例を紹介する。

## 6. <富山県立大学 発表者②>



佐伯 孝:工学部環境・社会基盤工学科 准教授

プロフィール:2002.4 - 2005.3 豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 環境・生命工学専攻  
2000.4 - 2002.3 豊橋技術科学大学 工学研究科 エコロジー工学専攻  
1998.4 - 2000.3 豊橋技術科学大学 工学部 エコロジー工学系

講演タイトル:物の流れの解析と環境負荷の評価

講演要旨:現在は廃棄物として、処理費を支払っているモノが、他社・他業種の視点では貴重な原料になり得ます。物の流れを企業の枠を超えて俯瞰的に把握することで、廃棄物を資源として捉え直し、さらには環境負荷(LCA)を評価することで、コスト以外の価値を持たせることが出来ると考えています。

## 7. <富山高等専門学校 発表者②>



福田 知博:物質化学工学科 准教授

プロフィール:2019年10月 - 現在 国立高等専門学校機構富山高等専門学校 物質化学工学科准教授  
2011年4月 - 2019年9月 国立高等専門学校機構富山高等専門学校物質化学工学科 助教  
2010年10月 - 2011年4月 九州大学 工学研究院 化学工学部門 博士研究員  
2007年4月 - 2010年9月 北陸先端科学技術大学院大学マテリアルサイエンス研究科  
博士(マテリアルサイエンス)取得

講演タイトル:糖鎖高分子を活用した菌体の酵素誘導能制御

講演要旨:木材腐朽菌として知られる糸状菌は、ソホロースという糖を感知して木材中のセルロースを分解する酵素の生産を増やすことが知られている。本研究では、担持した高分子を合成することにより、糸状菌のシグナル伝達を促進し、より多くの分解酵素の生産を誘導することを目指している。

## 8. <富山県産業技術研究開発センター 発表者②>



酒井 康祐:ものづくり研究開発センター 機能素材加工課 研究員

主な研究発表:「AI基材の改質製造方法」特願2026-004505

「マグネシウム丸棒ツールによるADC12の表面改質」溶接学会2025年度秋季全国大会

「マグネシウム丸棒ツールによるアルミニウム基材の表面改質技術の開発」溶接学会2025年度春季全国大会

講演タイトル:マグネシウム丸棒ツールを用いたアルミニウム合金の表面改質

講演要旨:アルミニウムは鉄と比較して軽量であるが摩耗しやすいため、機械的性質の向上のため表面改質が必要です。本研究では新たな改質方法としてマグネシウム丸棒を回転させながらアルミダイカストADC12の表面に押し当て、摩擦熱によって両材料を相互反応させることで新たな層を形成させる手法を試みました。改質後の断面組織観察や硬さ試験の評価により、プロセス条件が改質層の組織や機械的特性に及ぼす影響について検討しました。